

第5 A分科会 研究課題「教職員の専門性に関する課題」

研究主題「主題研究を推進するための教頭の関わりはどうあればよいか」

～コロナ禍の制限下における無理のない取組を通して～

延岡支会 延岡市立岡富中学校 上中別府 利一

① 延岡市中学校教頭会において実施したアンケート結果

1 主題設定の理由

主題研究は、全職員が自校の教育目標に対応した学校全体の教育課題を達成するために共通のテーマを解決課題として設定し、計画的・組織的に取り組む活動である。その過程を充実させることを通して、教職員の指導力を向上させ、教育的力量を高めていくことにつながっていく。

つまり主題研究を充実させていくことは、学校の教育目標を実現するとともに、教職員の専門性を高めていくことに効果的である。

そこで本研究では、主題研究をより円滑に進めていくために、教頭としてどのように関わっていくことがより効果的かを具体的に共有し、他校の取組を参考にしていくことを通して、教職員の資質向上を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

主題研究に対する教頭の関わりをさぐり、研究主任の負担を軽減するとともに、より効果的な研修となるようにする。

3 研究の概要と成果

(1) 研究仮説

主題研究に対する教頭の具体的な関わりを情報交換して、他校の取組を参考にするとともに、自校の実態に応じた工夫・改善を行うことで、主題研究の一層の充実を図ることができるであろう。

(2) 研究実践

主題研究を充実させていくための教頭としての関わり方という視点でアンケートを実施した。

- ① 市内の全中学校教頭にアンケートを依頼して結果を集約する。
- ② アンケートを集約して、各学校の取組について情報交換を行う。
- ③ 情報交換を参考に自校で取り組んでみる。
- ④ 取組の結果について情報交換を行う。

<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会での指導・助言 ・授業参観週間を通して指導・助言
<ul style="list-style-type: none"> ・教員は一人一回研究授業を行うこととなっている。教頭として出張等でなければ必ず研究授業を参観し、フィードバックを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の主題研「生徒と教師が共に取り組む学校づくり」特に、この中で「SWPBS（学校全体で取り組むポジティブな行動支援）」について取り組んでいる。 ・教頭としてのかかわりについて「目指す生徒の具体像」について、教頭を中心に学校運営協議会に投げかけ、意見をいただき、研究主任に繋いでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・「社会に開かれた教育課程の実現」のため、コミュニティ・スクールにSDGsを絡めた研究を進めている。(教育課程内と教育課程外に分けて今できることを少しずつという視点で) ・熟議、区長懇談会、エコバック・マスク作成等 地域の方々を巻き込む企画書を作成して研究主任に提案している。校長のドリームプランとも重なるため、ある程度具体的な案を提案してサポートしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・主題研がある2週間前に、研究主任と次回の研修内容を確認し、指導助言を行うように心掛けている。その際補助資料の提供もできるよう教頭自身の研修も心がけている。
<ul style="list-style-type: none"> ・研究主任への助言や参考資料の提供、参考文献の提供 ・研究推進委員として全員授業日程の調整
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会に向けての、研究主任への助言 ・<u>異年齢・異教科によるグループ編成の主題研の推進にあたり、グルーピングするうえでの研究主任への指導助言と、研究授業・事後研修の企画立案に係る指導助言</u> <u>(※)</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会(週1)での助言と資料提供 ・研究授業の際の指導案事前点検と助言、事後のミーティング参加(初期研修1年目:2名 2年目:3名)
<ul style="list-style-type: none"> ・研修にかかわる外部人材の活用方法を伝える。活用することになれば、連絡調整を手伝う。 ・研究推進委員会で、資料提示や助言をする。 ・研究主任に、今後の研究の進め方等のアドバイスを

い、寄り添いながら研究を推進していた。
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会での関わり ・研究授業及び授業研究会の在り方 ・校内研修で活用できる動画、Web ページの紹介及び研修資料の提供(※)
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会での関わり（研究主任への指導及び助言、研究授業(年間一人一研究授業)の日程調整、研究のまとめの進め方 等) ・中学校区内の三校合同研修会への関わり（主に研究主任への指導及び助言、三校合同研修会の進め方等)
<ul style="list-style-type: none"> ・主題研のテーマに沿った資料提供 ・検証アンケート例の提示 ・今年度と来年度を「どう繋ぐか」の検討
<ul style="list-style-type: none"> ・小学部と中学部が連携して、授業改善を実現するために、主に研究推進委員会で指導・助言を行っている。 ・両方の研究主任が本年度初めて担当するので、年度の初めに、昨年度からの引継ぎについていねいに確認した。 ・指導案検討や事後研において、文科省や県の発行した資料を活用している。
<ul style="list-style-type: none"> ・リーディングスキル研修に関して先進校の取組紹介(資料収集配付、研究主任への助言) ・研修における外部人材の活用(講師選定、日程調整) ・研究推進委員での関わり(研究主任への指導、助言、研修計画、全員授業日程調整)
<ul style="list-style-type: none"> ・研究主任への指導・助言 ・研修内容の提案(宅習の在り方・テストの見直し・課題の与え方) ・「授業改善の取組」の資料提供 ・「新学習指導要領」のポイント解説
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一回の授業を週の初めに職朝で、発言し、できるだけ参加してもらえるように啓発している。 ・授業力向上に関する資料等は、別紙で印刷し、配付している。 ・研究推進委員会(研究主任と事前に打ち合わせ、助言、日程調整を行う)の効率的に短時間で行う。

② 各学校の取組についての情報交換

学校の規模や、小中一貫校など、学校の状況が様々であるとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため制約が多く、統一して取り組むテーマを決めることはしなかった。

それぞれの学校において、他校の取組を参考にして、新たな取組を行ったり、今の取組

を改善したりすることができないかをそれぞれで検討した。

③ 自校での実践について

本校は小中一貫校で、主題研究は「学ぶ楽しさに気付き、確かな学力を身に付ける生徒の育成～研修体制と指導方法の工夫改善を通して～」という研究主題で研究を実施してきた。例年、小中合同での研究授業を実施してきたが、**他校での実践(※)を参考にして、**以下のような工夫を行った。

- ・小学部、中学部の職員で班の編成を行い、班の中で授業参観を実施するようにした。
- ・事前研修で、指導案(略案)をもとに、授業のポイントとなる部分を確認し、動画として記録を残すようにした。
- ・動画を活用して事後研の充実を図り、そこで出された意見を集約して、全体での共有を行った。

これらの取組により、時間割を調整する教務主任の負担を軽減することができたり、自習時間を減らしたりすることができ、職員の負担を軽減しながら、研修の内容を充実させることができた。

【小中合同の事前研修の様子↓】



④ 取組の結果についての情報交換

共通実践項目を設定したわけではないので、それぞれの学校における取組について情報交換を実施することはできたが、成果をあげるころまでは研究が深まったとは言えない。本研究については令和3年度も継続して実施していく。

4 今後の課題

次年度の主題研究では、延岡市内の中学校の多くがICTの活用に取り組んでいる。効果的な取組についての情報交換を行い、各学校の実践の充実を図っていきたい。